

# ワカメを大規模養殖

## 遊休漁場活用、今季120ト



佐々木晶生さん

岩手県大船渡市の漁業者、佐々木晶生さん(尙マルカツ水産)同市三陸町綾里に取締役、電話0192・42・2665)は養殖ワカメの大規模生産に挑戦している。理研食品(宮城県多賀城市)が種苗を供給するなど全面的にサポート。2年目の今季は生産量が前季比2倍の120ト(原藻換算)に達する見込みだ。家業の漁船漁業が振るわず、三陸産ワカメも減産傾向が続く中、「まだ勉強中の身だが、規模はもっと拡大できる。地域の雇用創出にも貢献したい」と意気込む。

### 大船渡綾里の佐々木晶生さん

### 理研食品が支援

遊休漁場を解消したい

地元の綾里漁協と岩手県漁連、原料の安定調達を目指す理研食品の後押し

を受け、NPO法人水産船を新造した。今季の施設行使台数は168台(1台1養殖ロープ100以て、漁協などによる県内最大規模。元生産者の指導の下、育成から出荷まで手掛ける。



荒波にもまれて育ったワカメは肉厚で香りも豊か



湯通しなどの1次加工用機械は理研食品が貸与



鮮やかな濃い緑色に変化するとすぐに海水で冷却

理研食品は湯通し、塩蔵といった1次加工用機械を貸与するほか、自社開発した早生(わせ)、中早生の種苗を供給。芯抜きなどされた全量を相対で買い取る。「綾里は三陸の中でも良質なワカメが育つエリア。共販品と同等の品質」と原料事業グループの斎藤大輔さん。主力の「ふえるわかめちゃん」などに製品化され、親会社

の理研ヒタミ(株)(東京都)の販売網で全国に流通する。早生種は今季、1月中旬には収穫サイズの2・5倍

まで生育した。来季は漁場との相性がいい中早生の割合を増やす計画。晶生さんは「晩生(おくて)の県産種も組み合わせ、(4月下旬までの)シーズンを通して安定的に収穫できる体制を早急に整えたい」と話す。

ただ、遊休化されている漁場は遊休化され、沖合で作業しにくかったり、川上淳参事は「高齢化や担い手不足は深刻だ。遊休漁場の管理は大変で、利用されて手数料が入れば漁協経営にとつてもありがたい」と語る。管内で管理するホタテ

とホヤを含めた施設台数は2577台で、このうち約190台が遊休のままだという。区画漁業権の免許更新に合わせ、来季は新たに20台を晶生さんに付与する方針だ。

## 宮城ブース出展募る

### 経費一部補助、28日まで

### 来年2月のシーフードショー大阪

宮城県は28日まで、第22回シーフードショー大阪(2024年2月21〜22日、ATCホール)に

開設する「宮城県ブース」の出展事業者を19社程度募集している。

申請書は県ホームページから入手可能。要件を満たせば出展経費が一部補助される。問い合わせは県水産振興課販路開拓支援班(電話022・211・2954)へ。

## ナノレベルで研究開発

### 東北大と連携、施設活用へ

### 理研ヒタミ

の拡充を目指す、世界最先端の研究に産学協創で挑む。

ナノテラスは低エネルギーの軟X線を使って電子の動きを可視化し、物質の状態や機能をナノレベル(100万分の1単位)で観察できる「巨大な顕微鏡」。例えば乾燥わかめを水で戻した時

の変化を分析すると、よりの状態に近づける品質の改善や、新たな製造方法を模索できる。

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構(千葉市)と一般財団法人光科学イノベーションセンター(仙台市)が同大青葉山新キャンパスに整備を進めており、運用開始は2024年度の予定。約380億円の整備費は国や地元自治体などが負担し、一定額を出資



仙台市で建設が進むナノテラス(光科学イノベーションセンター提供)

理研ヒタミ(株)(東京都新宿区、山木一彦社長)は、東北大(仙台市)で建設が進む次世代放射光施設「ナノテラス」の有志連合(コアリション)に加入した。同大と共同研究契約も締結。新技術の開発や製品

の拡充を目指す、世界最先端の研究に産学協創で挑む。

の拡充を目指す、世界最先端の研究に産学協創で挑む。

の拡充を目指す、世界最先端の研究に産学協創で挑む。

の拡充を目指す、世界最先端の研究に産学協創で挑む。

## あおさ塩ラーメン 大臣官房長賞受賞

### 喜多方市の河京

喜多方ラーメン製造・販売の(株)河京(福島県喜多方市、佐藤寛次郎社長、電話0241・22・0875)の「あおさ塩



ラーメン」の写真が2022年度優良ふるさと食品中央コンクール(一般財団法人食品産業センター主催)の国産畜水産品利用部門で農林水産省大臣官房長賞を受賞した。相馬市松川産のあおさ(ヒトエグサ)を使用する。

あおさは(株)マリフーズ(相馬市)が納入。麺は河京が独自にブレンドした2種類の小麦粉に「名水百選」に選ばれている地元の深流水を加え、じっくり

熟成させた。スープは内池醸造(福島市)が製造。県内3地方の良さが凝縮している。

すると民間企業もコアリションメンバーとして施設を10年間活用できる。同社はまず、食品や化粧品に添加して機能を付与する各種乳化剤やビタミン、色素などの作用メカニズムを可視化し、技術革新や新製品開発につなげる計画。同大と共同研究契約を結ぶことで最適な計測方法の提案などの支援が受けられる。研究開発を加速させ、研究者間の交流による人材育成も図りたい考え。

30年に向けた同社の中期ビジョンは「持続可能な社会をスペシャリティ

6月に商談会 バイヤー募集

岩手県は、6月13日にホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング(盛岡市盛岡駅前北通)で開く「いわて食の大商談会2023」のバイヤーを募集している。参加無料。

締め切りは5月31日。県内の食品製造業者や農林漁業者約100事業者が出展する予定。試食コーナーもある。県ホームページ内の専用フォームから参加申し込み可能。問い合わせは事務局の岩手県産物商品部(電話019・637・9899)へ。

## 東北・北陸版